

ギニアグラス「ナツカゼ」の定植作業を行いました

令和元年5月9日
(独) 家畜改良センター
熊本牧場

大型連休明けの好天の中、当場の種苗生産ほ場1.68haにギニアグラス「ナツカゼ」の定植を行いました。

ギニアグラスは、暖地型の牧草で夏場の生育が旺盛であることから西南暖地の肉用牛繁殖農家での利用のほか、センチュウ対策の効果が確認されていて、緑肥などでの利用も行われています。

当場では、海外増殖に向けた「もと種^{たね}」の増殖を実施していることから、ギニアグラスの一般的な採草向け栽培とは異なる、マルチングした畝に苗を定植する栽培方法を実施しています。

今後、7月頃には種子が結実しますが、稲などとは異なり結実種子が脱粒しやすい性質であることから、当場考案のシードキャッチャーにより収穫を行っていく予定です。



(マルチ張りの様子)



(苗を定植する様子)



(定植後のほ場)



(参考：シードキャッチャーによる収穫風景)